

年度評価シート

課名 高齢者福祉課

施設の名称	老人福祉センター等11館	指定管理者名	ワーカーズコープ																																							
1 履行状況																																										
<p>新型コロナウイルスの影響により、一部事業については、中止したのもあったが、代替の事業を行ったことにより、事業計画書から逸脱することなく、概ね適切に実施できている。</p> <p>(1) 施設維持管理業務</p> <p>各種保守点検、建築設備点検等、第三者委託により、施設維持管理書に従い、適切に漏れなく実施された。但し、今年度は新型コロナウイルスの影響により、10月下旬まで浴室利用が休止されたため、対象館の循環ろ過器保守点検及び水質検査の実施は10月以降の実施となった。</p> <p>修繕等については、令和2年度実施した劣化調査の指摘項目に関する建築設備点検や、消防設備・空調設備の不都合など、利用者の安全面、健康面に関する案件について迅速に修繕が行われた。</p> <p>(2) 施設利用状況</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>年間利用者数</th> <th>前年度利用者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>用宗老人福祉センター</td> <td>27,640人</td> <td>15,215人</td> </tr> <tr> <td>鯨ヶ池老人福祉センター</td> <td>27,438人</td> <td>17,370人</td> </tr> <tr> <td>長尾川老人福祉センター</td> <td>20,537人</td> <td>13,335人</td> </tr> <tr> <td>船越老人福祉センター</td> <td>17,384人</td> <td>12,589人</td> </tr> <tr> <td>折戸老人福祉センター</td> <td>9,714人</td> <td>8,917人</td> </tr> <tr> <td>蒲原老人福祉センター</td> <td>10,357人</td> <td>5,568人</td> </tr> <tr> <td>清水老人憩の家清開きらく荘</td> <td>11,843人</td> <td>6,119人</td> </tr> <tr> <td>清水東部老人憩の家</td> <td>6,008人</td> <td>3,711人</td> </tr> <tr> <td>清水北部交流センター</td> <td>22,948人</td> <td>12,158人</td> </tr> <tr> <td>清水南部交流センター</td> <td>8,930人</td> <td>5,784人</td> </tr> <tr> <td>由比交流センター</td> <td>17,240人</td> <td>10,063人</td> </tr> <tr> <td>(合計)</td> <td>180,039人</td> <td>110,829人</td> </tr> </tbody> </table> <p>(3) 事業実施状況</p> <p>ア 各種相談（生活相談・健康相談）</p> <p>今年度も昨年度に引き続き、毎月1回の生活・健康相談のほかに、相談を随時受け付けた。13館で、延べ481人の相談があり、施設がコロナ禍においても、様々な不安を抱える利用者にとって話を聴いてもらえる場であり続けることは、評価できる。さらに、税理士・歯科衛生士・栄養士などの専門家による相談も各館で行った。</p>				施設名	年間利用者数	前年度利用者数	用宗老人福祉センター	27,640人	15,215人	鯨ヶ池老人福祉センター	27,438人	17,370人	長尾川老人福祉センター	20,537人	13,335人	船越老人福祉センター	17,384人	12,589人	折戸老人福祉センター	9,714人	8,917人	蒲原老人福祉センター	10,357人	5,568人	清水老人憩の家清開きらく荘	11,843人	6,119人	清水東部老人憩の家	6,008人	3,711人	清水北部交流センター	22,948人	12,158人	清水南部交流センター	8,930人	5,784人	由比交流センター	17,240人	10,063人	(合計)	180,039人	110,829人
施設名	年間利用者数	前年度利用者数																																								
用宗老人福祉センター	27,640人	15,215人																																								
鯨ヶ池老人福祉センター	27,438人	17,370人																																								
長尾川老人福祉センター	20,537人	13,335人																																								
船越老人福祉センター	17,384人	12,589人																																								
折戸老人福祉センター	9,714人	8,917人																																								
蒲原老人福祉センター	10,357人	5,568人																																								
清水老人憩の家清開きらく荘	11,843人	6,119人																																								
清水東部老人憩の家	6,008人	3,711人																																								
清水北部交流センター	22,948人	12,158人																																								
清水南部交流センター	8,930人	5,784人																																								
由比交流センター	17,240人	10,063人																																								
(合計)	180,039人	110,829人																																								

イ 介護予防・健康増進

しぞーかでん伝体操・しぞーかちやきちやき体操については、13館で37,613人の参加者があり、昨年度から大幅に増加した点は評価できる。

また、今年度は、リハ・パークの「筋肉量測定会」、「骨盤力アップ講座」やしぞおか健康長寿財団の「ふじ33プログラム」、「リーダー養成事業」など幅広く活動を行った。

ウ 老人クラブに対する援助等

令和3年度も、新型コロナウイルス感染防止のため、用宗・鯨ヶ池・長尾川で例年行われている老人クラブの総会、集い等が中止になったが、折戸老人福祉センターや蒲原老人福祉センターでは、ペタンク、グランドゴルフ、クロッケーなどの老人クラブの屋外活動や大会のサポートを行っている。

きらく荘では、音頭の集いや地区会議が活発に行われ、世代間交流センターでは老人クラブ内でのクラブ活動支援や大会開催サポートなどを行った。

エ 自主事業

11館合同や複数合同の演芸、ニュースポーツなどのイベントや季節の行事などは、コロナ禍のもと開催することはできなかった。蒲原寺子屋や船越なつかしの昭和塾は、特定のジャンルに拘らず開講した。コロナ禍で開催できないイベントの代わりに認知症や救命の講習、笑楽音教室等を開催し、利用者の要望を反映させた点は評価できる。文科系の各種教室やクラブ・サークル活動のモチベーション維持のために、年間を通して、日常の館内展示や作品展を重視するよう心掛けていた。

オ その他

防災訓練・津波避難訓練（用宗・折戸）については、各館2回以上実施した。また、運営委員会、クラブ代表者会議を各館で開催し、地域や利用者とのコミュニケーションを保持した。

今年度の職員研修は、静岡市体育協会より講師を招き、1月、2月の全2回で高齢者運動指導研修会を開催した。

鯨ヶ池老人福祉センターでは、「静岡県すこやか長寿祭美術展」の県立美術館への出展サポートを行い、陶芸では銅賞、彫刻では銀賞という高評価であった。

廃棄物処理は6月に実施し、各館の蔵書を分別整理し、不要な書籍は12月に専門業者に委託し処分を行った。

2 市民（利用者）からの意見・要望の内容とその対応状況の評価（クレーム対応 等）

市民（利用者）からの意見・要望・クレームについては、一人ひとりの職員が市の窓口であるという意識と緊張感をもって対象者に丁寧な説明を行うと共に、迅速かつ適切に対応されている。

3 市民（利用者）へのアンケートや満足度調査の状況評価	
<p>利用者アンケートについては、コロナ禍で利用者が減少していることから、アンケート期間を拡大し、平常年度の6割近い回答を得ることができた。</p> <p>多くの利用者の意向などを施設運営に反映させるよう努め、施設利用満足度は、「満足」「やや満足」が90%以上で、職員対応満足度も、「満足」「やや満足」が90%以上となっており、概ね利用者に満足いただいていると評価される。さらなる努力を期待したい。</p>	
4 指定管理者の経理状況の評価	
<p>令和3年度の経理状況に関する短期的なマイナス要因として、電気・ガス・ガソリン・灯油などのエネルギー諸費用の価格上昇や最低賃金エネルギー諸費用の価格上昇や最低賃金上昇に伴う人件費の上昇が挙げられる。また、各館事業数増加などから講師料も前年度比で増加した。反面、コロナ禍前の比較としては、光熱水費の大幅な減少（10月下旬迄、浴室利用休止が主要因）、浴室などの利用料収入が大幅に減少（同）、した。</p>	
5 総括的な評価（課題事項・指摘事項及びそれらの改善状況 など）	
前年度事務事故発生の有無	無
前年度モニタリング調査における改善協議事項の有無	無
<p>今年度の施設運営・管理の最大の課題は、新型コロナウイルスの影響により、減少している利用者数を増加させることであった。コロナ前の4割強まで戻ってきたが、未だ来館を躊躇される高齢者も少なからずおり、高齢者のフレイル化が懸念される。これらに対し、ペタンクやグラウンドゴルフなどのニュースポーツ活動や、デジタル活用推進事業へ参画しスマホ講座を行うなど、利用者ニーズを捉えた事業を推進し、利用者の増加に努めた点は評価できる。</p> <p>施設の管理運営全般に関しては、速やかに修繕を実施し、安心・安全な管理運営を心がけている点が評価できる。</p>	

※事務事故が発生したとき及びモニタリングにおいて改善の指導があったときは、必ず改善状況を記載すること。